川柳マガジンクラブ東京句会　4月

平成20年4月13日　駒込学園にて

出席者29名

三浦哲夫、伊藤三十六、小倉利江、村田倫也、石田きみ、関　玉枝、井手ゆう子、甲野竜雄、白勢朔太郎、高田以呂波、棚瀬くんじ、若山かんな、五十嵐淳隆、山口千枝子、河野桃葉、横山きのこ、水野絵扇、渋川渓舟、加藤品子、秋山和子、丸山芳夫、笹川可不可、菊地順風、浦川一平、阿部闘句郎、山口英語、五味田達也、植竹団扇、松橋帆波

欠席投句2名

星出冬馬、石崎流子

句評会「自由吟」

黄砂舞う空に白鳥北帰行　流子

ラストラン夜汽車の汽笛闇を抜け　かん菜

ダイヤ改正でなくなる夜行列車の車掌が、その列車の汽笛が素晴らしいという事を話しておられて、その事を句にしてみたくて詠んだ作品（作者）

もう逢えぬ人と酌み合う時を止め　きみ

「もう逢えぬ」の意味を聞きたい。時を止めて酌みあっているという表現がいい。（芳夫）

お互いに気持ちを確かめ合っている状況が出ていい。（利江）

実感句です。（作者）

うちの子に限ってそんなことを　する　淳隆

最近のニュースなどで親が言うせりふと重なる。（達也）

一字あけの意味を説明して欲しい。（朔太郎）

（以　呂　波）

耳で聞くだけでなく。目で読んだ時に一時あけが面白いと思う。（くんじ）

教育ママ二人の会話。十七音のなかで対話を表現できないかと試みた作品。（作者）

正札と勿体付けて売っている　倫也

「正札」とは何だろうということを疑ってみた句です。（作者）

なりたくない早くなりたい六十五　くんじ

六十五の意味が聞きたい（玉枝）

六十五前だと実感があるが、それを超えている人にはどうだろうか。句に数字を入れるのは中々難しいなと感じた（淳隆）

年金受給年齢です（作者）

宇宙から見れば地球は未だ青い　以呂波

月から見た地球はなんと瑞々しいのか、今のニュースを上手く表現していると思う（きのこ）

宇宙と地球の大きさの対比が面白い。「青い」は色だけではなく、未熟という意味もあるのでは、まだまだ地球は発展していく余地があるという感じも受ける。（かん菜）

「地球は青かった」のガガーリンからだいぶ経っていて、戦争や紛争も起きているのに、先日の「かぐや」からの映像ではまだ青かった、でも何時まで持つのかなぁと言う想いで詠んだ作品。（作者）

嫁任せ巣鴨へ今日も紅を引く　品子

幾つになっても女性は紅を付けていてもらいたいと思う。（竜雄）

テレビなどで見る巣鴨のご婦人たちのお元気な姿から詠んだ句です。（作者）

飽食のグルメに馴れたテレビジョン　一平

敗戦の前後を通じた食糧難から思うと最近の日本はグルメ番組が多い。食料自給率が少ないのにどうして？そんな思いから詠んだ句です。（作者）

宇宙基地いずれ地球を過疎にする　三十六

超未来においてはありそうな気がする（くんじ）

ＳＦ小説のような場面が想像されて面白い（かん菜）

未来を空想した。地球から逃げ出すのはあの世でなければ宇宙だろう。（作者）

晒し者にされた乾杯のポーズ　朔太郎

乾杯の音頭をとる人が延々と喋っている時の周りの状況が「晒し者」という表現に繋がった。（作者）

大陸の錆か黄砂が飛んでくる　芳夫

広い大陸から飛来する黄砂を「錆」という言

葉で表現したところがいい。（一平）
黄砂を錆と捉えたところがいい。（ゆう子）
「大陸の黄砂を飛ばす錆落し」と詠んだのだが、こちらの方がいいと思った。町工場の金屑と黄砂が重なって黄砂を大陸の錆と表現した。
（　作者）

挨拶代り中身の額がものを言う　千枝子
なるほど面白いなと思って（利江）
一つでもご評価いただいてありがとうございました。（作者）

カーナビに詫びて選んだマイウェイ　団扇
誰かに指示された道ではなくわが道を行くという潔さがいい。（きのこ）
人生に譬えて理解するというより、こんな抜け道も知っているよという直接的な意味で理解しました。（芳夫）
「詫びて」という言葉が効いている（ゆう子）
私は人生に譬えて捉えてみました。ゴーイングマイウェイということを感じ取りました。
（淳隆）

機械の声に詫びている、そんな感情を詠んだ。
（作者）

春を待ってる恋も桜も　絵扇
七・七で創ったところが良い。待っているのは恋や桜ではなく実は人です。そういう点でロマンチックさが良い。（団扇）
中学生のバレンタインの風景を見てその思いを、十四字詩という形に表現してみた。（作者）

春の夜のピノキオの鼻誰も持ち　可不可
川柳は社会性のあるメッセージという観念があったので、私だけではない、誰もが持っているだろうピノキオの鼻、を表現してみました。久保田万太郎の「時計屋の時計春の夜どれがほんと」をベースにしてみました。（作者）

少しずれ大きくずれて今の幸　ゆう子
このずれは並列ではなく時間の経過だと見る。そこで今の幸がある。後悔はない。分かりやすい句（団扇）
皆さんの鑑賞の通りでございます。（作者）

利用価値あって大事にされている　桃葉
人間こうありたいなと思う。人の話を聞くだけでも利用価値といえると思う。（玉枝）
十年先の私と今の私を対比してみた。（作者）

極上の笑顔遺影にしておくれ　きのこ
実感が湧く。（桃葉）
万が一の時に慌てないように、という思いです。
（きのこ）

春たちがパッチワークに色をつけ　順風
春の風景が広がって綺麗な句です。（和子）
表面的過ぎたかなと思っています。（作者）

DNAひとつ削って咲き誇る　哲夫
サクラサク打って飲んでる大ジョッキ　竜雄
合格した嬉しさが満ち溢れている良い句だと思う（きみ）
打つはメールであろう。それも合格番号をカメラで撮って送るというそんな風景を思った。
（団扇）
大学に合格してビールが飲めるということは二十歳を過ぎているということ。つまり二浪ないしは三浪しているわけで、ビールくらい飲ませてやれよという句（作者）

お荷物にされてる後期高齢者　利江
人生に前期、中期、後期などとつけること事態が失敬なことで、役人の言葉かもしれないが、この言葉は許せない思いがあって選びました。（一平）
後期高齢者という言葉に政府に対して腹が立つ（絵扇）
後期高齢者という言葉に頭に来てぱっと浮かんだ作品（作者）

散ることのできる桜が妬ましい　帆波
桜は散ってもまた咲けるが、人間はそうではない。また、桜の散り際の潔さに嫉妬しているのか。（倫也）
恨めしいでは弱いので妬ましいとした。散り際などと格好付けても実際はそんなものではない。そういうことを表現したかった。（作者）

消しゴムの屑にまぎれている秘密　渓舟
発想がいいと思う。（品子）
一旦は本当のことを書いてみたのだが、気後

れして闇に葬ったという感じがよく出ていると思う。(倫也)

消しゴムの小さな屑と「秘密」との対比が面白い。(ゆう子)

うっかり間違ったものを消すのが消しゴムの役目かなと思っていましたが、最近は本当の事を消す事もあるようです。(作者)

二番目に好きと書かれたハガキ来る　冬馬

良い句だと思うが、二番目という意味が解らない。(哲夫)

年金の死なない程の有り難さ　玉枝

言い句だなと思う（竜雄）

死なない程という言葉が効いている（芳夫）

人の話や自分の実感もあって、ちょっと捻ってみました。(作者)

ゴミ屋敷住んでる人は何者だ　達也

事件として実際に見た事柄をベースに創りました。(作者)

真夜中の爆音僕はここにいる　闘句郎

身勝手という課題で詠んだ作品。「鼾」という解釈を聞いて、課題があって初めて成り立つということを思いました。(作品)

出番待つベビーベッドの眠る納屋　和子

少子化が言われているが、私もベビー用品は捨てられないで居る。(桃葉)

孫の使っていたものを曾孫のために使えないかなと、捨てないで置いてある。そんな思いを句にしました。(作者)

階段の昇り方にも老いを知り　英語

実感がある。年を取ると下りはいいのだが、昇りがちょっと、という事がある。(竜雄)

昇っている自分の姿を感じ取りました。(作者)

互選・互評「うっかり」

1点句

うっかりと嫁のルージュに虚を突かれ　哲夫

うっかりミス若いミスにはなぜ甘い　ゆう子

逆さまの急行に乗り遅刻する　倫也

コーヒーを飲みに入った美容室　団扇

うっかりと開けてしまった玉手箱　三十六

改正前のダイヤに気付く待ち時間　朔太郎

社会の窓注意をしてもいいですか　ゆう子

玉葱をうっかり食って猫倒れ　達也

返事して懐寒いのに気付く　きのこ

お喋りに口が滑った仲たがい　桃葉

補聴器を忘れてきたと嘘一つ　順風

今日も又終着駅で起こされる　竜雄

居眠りに慌てて降りた手前駅　玉

メロドラマかけたやかんは疾うに空　玉枝

診察券忘れ　病院眺めてる　桃葉

お隣を忘れて足を踏んじゃった　流子

口先の上手い貴男に乗せられて　千枝子

うかうかとしてると後期高齢者　闘句郎

出題のミスを知らされ赤ら顔　英語
予約日は先週ですとにべもない　和子

2点句

ケータイを忘れて君の名はになる　品子
旅支度夫の着替えみな忘れ　きみ
絶交をしたのに電話かけている　芳夫
うっかりと針千本を呑んじゃった　流子
天狗とは知らず議論し鼻を折り　一平
うっかりと押してしまった核ボタン　三十六
任せろとうかつに言って空財布　朔太郎
春めいて糠喜びの風邪を引く　芳
探してた財布はナスと野菜室　絵扇
タバコの火巨人が負けているらしい　帆波
ノックせずトイレ開けたら人がいた　竜雄
脳トレをしても増えてる物忘れ　利江
止まらない駅を往復見て過ごす　団扇
気づいたらいつもの百合の芽がふたつ　英語

3点句

卒業を敵が七人待っている　可不可
もと彼と唱った歌をうたってる　くんじ
欲張った株に身ぐるみ剥がされる　桃葉
しゃべったら事情聴取に署名され　哲夫
独身じゃございませんと断られ　倫也
不覚にも社長を秘書を間違える　千枝子
なぜだろう妻のパンツを穿いている　帆波
家なのにそれじゃ帰ると腰を上げ　帆波
バス停を通り過ぎてた花の町　和子
ゴミの日を忘れてゴミを持て余し　和子

4点句

ふしだらな娘ですがとつい本音　団扇
うかうかと戦が好きな人と組み　淳隆
神様は満願の日を忘れがち　芳夫
うっかりが勲章になるお役人　かん菜
太ったね妻は三日も口利かぬ　千枝子
言わなくていい一言が呑み込めず　きのこ

5点句

うっかりがドミノ倒しでやって来る　冬馬

◎6点句からは選出者、作者にコメントを頂きました。

6点句

玄関へ夕刊とりに日曜日　くんじ
早過ぎた時間本屋で潰し過ぎ　以呂波

芳夫　句意には同感だが、ちょっと言葉がごちゃごちゃしているかなと思う。

玉枝　実感と重なった。

達也　いつも感じる

きのこ　待ち合わせで早く来た時に本屋で時間を潰すはずが相手を待たせてしまったりという実感と重なる。

順風　経験と重なる。

作者　実感句。また、上五の過ぎと下五の過ぎで遊んでみた。

軍艦が避けてくれると思い込み　淳隆

千枝子　うっかりが命に関わる場面もあると感じた。

くんじ　軍艦は徹底的に警戒しているはずで、それを小さな船が信頼してしま

ったということだろうか。

玉枝　皆さんと同じ意見です。

三十六　軍艦を漁船と変えても成り立つ。どちらもうっかりしていたのでは。

作者　着想は、軍艦の方が避けると思い込み。避けては「よけて」と読んでいただきたい。

写真では美人ですよと傷をつけ　一平

闘句郎　自分が本当に言ってしまいそうなので頂いた。

絵扇　修整した写真なのかなと思った。

千枝子　川マガの市や真に移っている自分を見てビックリした事を思い出した。

和子　ときどきこういう傷をつける言い方をする人がいる。意識してか、無意識か判らないが、もしかして自分もそうなのかなと思ったりした。

渓舟　こんな事もあるのかなと思った。川柳的。

作者　読んで字の如くなのだが、つい口に出てしまって相手を傷つけてしまう場面から着想しました。

不注意を焦がした鍋に責められる　利江

きみ　誰しも経験があると思うので頂いた。

桃葉　主婦として一番拙いのではと感じ、姑に叱られているような情景が浮かんだ。

きのこ　鍋を焦がしたときは日に干すと焦げが取れます。

順風　焦がした鍋はあとが残ると思うのだが、かといって愛着があって捨てられない。後々反省の日々を詠っているのでは思った。

団扇　鍋に責められるという擬人化が上手いと思った。

作者　皆さんのご意見の通り。後々まで悔いを引きずる

妻の名を呼びまちがえた日の不覚　渓舟

きみ　寝言で別の女性の名を呼んだのでは、不倫とは限らないが、そういった状況かと思う。

淳隆　妻のパンツという句があったが、それよりもうっかり度から言うと名前の呼び間違えの方が罪が重いかと・・・

倫也　やはり寝言で女性の名を呼んだのでは。

竜雄　私の句で同じ名の妻と愛人持っているというのがあるが、そうすればこういうことはないだろうと思った。

作者　真相は電話をしたときに娘と妻を間違えてしまったという体験からの着想。

7点句

うっかりを老人病にして生きる　朔太郎

適量をすごし本音を語る酒　渓舟

8点句

お祝辞へ禁句がふいと口を出る　きみ

警察もあなたのブログ読んでます　かん菜